イノベーションマネジメント研究科
技術経営専攻

コーポレートファイナンス

第2講：投資に関する理論（1）

東京工業大学イノベーションマネジメント研究科
中川　秀敏
E-mail: nakagawa@mot.titech.ac.jp
Office Hour : 13:00-14:30, every Tuesday, at W9-105

※配布資料がある場合、講義前日の午後5時までにはアップするので事前に
http://www.craft.titech.ac.jp/~nakagawa/dir2/lecture.html#TIT2006_2
から各自でダウンロードして用意すること。

今回の目標

- 将来価値と現在価値の概念、およびそれを関係づける割引率の概念を理解する
- 永久債、成長型永久債、年金型投資商品の現在価値の求め方を理解する
- NPV法によるプロジェクトの投資判断の方法の「枠組み」を理解する

プロジェクトとは？

- 資本計画で分析される一般的なプロジェクトのもつ3つの特性
  - 大規模な初期投資
  - 一定期間にわたるキャッシュフロー
  - 終了時に残存価値（予想清算価値）を有するもの
- 広義に考えると、企業の稀少資源の利用につながるあらゆる意思決定を含むものと考えられる
  - 新たな事業領域や新市場への参入などの戦略的意思決定
  - 他企業の買収
  - 既存事業や既存市場での新展開についての意思決定
  - 既存事業や既存プロジェクトの運営方針変更の意思決定
  - 企業活動の円滑な遂行のために必要なサービスの、最適な提供法についての意思決定

※参考：ダモダラン「コーポレートファイナンス－戦略と応用」, p.166

プロジェクトの投資判断のために

- 初期投資額→比較的容易に算出される
- 将来キャッシュフローの決定（金額・期間）
  - フリーキャッシュフローの概念、会計的な知識が必要となるので詳しく扱うのは後回し
- 割引率の決定
  - リスクや資本コストの概念が必要となるので、詳しく扱うのは後回し

- 今回できることは、上の要素が全て与えられているときに、NPV法というのはどういう手続きで、投資判断を行うかという枠組みの理解だけであることに注意